



自分たちの町は自分たちで守る！究極のボランティア！



あおき たけし 青木 威使さん

武豊生まれの武豊育ち。生業の建設会社も武豊町。消防団に足を踏み入れて33年。地元にとつぷりと浸かってきたからこそ今がある。すべてのご縁に感謝です。

集まれ！

22歳だったある日の夜、見ず知らずの人が赤い回転灯を回した車で勧誘にきた。父親も若い頃に消防団をやっていた。その父親に消防団は何をするのか聞いてみると、火事が起きたら消しに行くという答え。面白そうだと返事をすると、後日制服と年間スケジュールが届いた。その多さに結構ビックリした。

気を付け！

消防団員現役を分団長含めて10年間、消防職員や先輩達の指導のおかげで、たくさん事を学び、数知れずの災害現場を経験した。人の生命の尊さや住民の財産の大切さは、たくさんした後輩達へ消防団魂として伝えてこられたと思う。

42歳の時に副団長として復帰。13年後の今は団長に就任。

敬礼！

訓練は休日や夜間。自分の楽しみや家族との団欒を犠牲にする事を考えると、団員確保が最難関だ。でも風水害や大規模な災害が発生した時には、絶対に頼りになる地元に通じた集団だ。だからこそ世代が変わった消防団員達に鬼と呼ばれながらも、厳しい指導とねぎらいの言葉は欠かせない。

操作はじめ！

Aーが進んでもロボットが発達しても、人の命や財産にかかわる部分では、まだまだマンパワーが必要だ。私達消防団の存在は有志の集まり。

要求されるものは危険を伴う任務で、それを遂行するための組織と規律。それは日頃の訓練の賜物。もしかして災害時、あなたの命を助けてくれるのは…。

名言

俺たちは火事場の馬鹿力！

【お気に入りの一枚】



▲訓練の一コマ



私が作るもので喜んでもらえたら幸せ！



ただ みほ 戸田 美保さん

南保育園、武豊小学校、武豊中学校、その後も武豊町で結婚・育児、そして現在の活動へと繋がる。

介護と療育

20歳の時、母が脳梗塞から半身麻痺となり、小学6年生の妹を見ながら介護生活に。21歳で結婚、翌年に生まれた長女は言葉が遅く、3人目の出産後に自閉症と診断されました。下の2人を祖父母に預け、つくし学園の母子通園生活。母の会の会長も引き受け、やれることは夢中でやりました。

パン作りで人と繋がる

長女が半田養護学校に入学後、本格的にパン作りの勉強を始めました。納得がいくまで5年余。その間、まだ上手くできないパンを、子どもの通う西保育園の先生方が何度も注文してくれて、本当に嬉しかったです。この時、パン作りのスキルがぐっと伸びました。

手作りの大切さを伝えたい

パン作り研究会は障がいをもつ人の仕事となる喫茶&パン販売事業を将来の目標とし、6人でスタート。チラシを配り、想いを伝え、3ヶ月後には会員は82名！勉強会を月に2回開催。作ったパンの2個はその場で話しながら、残り家族でパン作りの工程を話しながら食べてねと伝えました。

障がいのある子に職場体験を

町内中学の特別支援学級の子を受け入れています。一緒に過ごすうちに我が子のように愛おしくなります。修了証には一人ずつ保護者に向けたコメントを書きます。記憶のどこかにこの体験が残ってくれたら嬉しいです。

名言

母と長女がいて今の私がいる

【お気に入りの一枚】



▲パン作り研究会が運営するほっとカフェ